

米海軍ヘリも低空飛行

ンター街近くを低空で通ったり、東京タワー周辺を蛇行したりする飛行もあった。米陸軍ヘリ「ブラックホーク」が新宿上空などで低空飛行する様子も確認されており、都心の広範囲なエリアで危険な飛行が常態化していることが判明した。

在日米軍のヘリコプターが首都・東京で日本のヘリであれば違法となる低空飛行を繰り返している問題で、米海軍ヘリ「シーホーク」が渋谷駅周辺の繁華街や浜松町周辺のオフィス街で低空飛行をしている様子を毎日新聞が計5回確認した。大勢の人が行き交う渋谷セ



東京都渋谷区のJ日産車付近から山手線内へ進入した米軍ヘリ「シーホーク」都内で2020年12月14日午後1時半ごろ、大場弘行撮影（写真は動画から）



もっと知りたい

渋谷などで5回確認



昨年12月14日に低空飛行が確認された米軍機のおおよその航路(→)

特権を問う

毎日新聞は昨年7月から都心を一望できる都庁第一本庁舎展望室(新宿区)など高さ200m級の複数地点から調査した。シーホークの低空飛行を確認したのは、10月29日▽11月12日▽12月14日▽同月17日▽1月20日の5回。複数の米軍基地がある神奈川県方面から渋谷駅周辺を経由して山手線内の上空に進入するなどした。高度は山手線内にある高さ200m

台のビルと比べると、それより低いか、ほぼ同じだった。日本の航空法は、人口密集地では航空機から半径600m以内にある最も高い建物の上端から300m以上の高さを「最低安全高度」と定め、それよりも高く飛ばすように規定している。

毎日新聞は昨年8月にも2回、シーホークが似たルートで飛ぶ様子を確認しており、新宿上空を飛ぶ機会が多く確認された米陸軍のブラックホークとは異なるルートを使っていて可能性もある。

在日米軍司令部は取材に「対して(日本側との)合同委員会でも定められた2国間合意を順守している。全ての飛行は任務に不可欠であるものか、訓練と即応のためのものだ」と回答。今回の飛行について日本側に通知して許可を得たかどうかの質問には回答せず、2国間合意の具体的な内容も明らかになっていない。東京都の担当者は「都心での低空飛行訓練の連絡は受けたことがない」としている。

高層マンションすり抜け

毎日新聞の取材班は都心の高さ200m級のビルから飛行の一部始終を目撃した。昨年12月14日午後1時20分、神奈川方面から都心に向かって来る機影を見つけた。多摩川を越えて都内に入ると、数分で渋谷駅近くまでやって来た。米海軍所属の「シーホーク」だった。

機体は渋谷駅と代々木駅の間にある明治神宮の上空を通過してJR山手線内を通過し、高度は近くの「NTTドコモ代々木ビル(ドコモタワー)」の建物部分(高さ約240m)より明らかに低い。若者が集まる原宿

・竹下通りにある「神宮前タワービルディング」(同約115m)のすべ上を通過した。そのまま山手線南部エリアを円を描くように飛び、広尾にある「日本赤十字社医療センター」の上も低空で過ぎる。2周目に入ると今度は東京湾方面に向かった。東京タワーを低空で横切り、浜松町のオフィスビル街の手前まで来ると急減速。蛇行しながら「日本生命浜松町クレアタワー」(同約155m)をかすめるように飛び、300m程度しか離れていない二つの高層マンションの間をすり抜け

対潜水艦の警戒や敵艦の探索、海難救助、輸送などで洋上活動が多い。首都圏では神奈川県の厚木、横須賀両基地に拠点がある。2013年に同県三浦市の埋め立て地で厚木基地の所属機が不時着に失敗し乗員2人がけがをしたことがある。

シーホークの主な任務は対潜水艦の警戒や敵艦の探索、海難救助、輸送などで洋上活動が多い。首都圏では神奈川県の厚木、横須賀両基地に拠点がある。2013年に同県三浦市の埋め立て地で厚木基地の所属機が不時着に失敗し乗員2人がけがをしたことがある。

【大場弘行、内橋寿明】
随時掲載